

2019年3月1日

株式会社日立物流(9086)

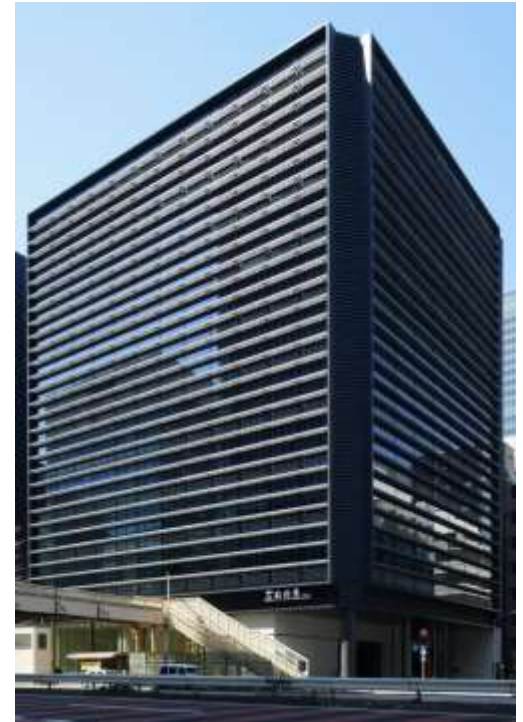
個人投資家向けIRセミナー

1. 日立物流のご紹介

2. 2018年度第3四半期実績

3. 事業環境と当社のめざす姿

- 【 商 号 】 株式会社 日立物流
Hitachi Transport System, Ltd.
- 【 創 業 】 1950年2月
- 【 本 社 所 在 地 】 東京都中央区
- 【 代 表 者 】 中谷 康夫
- 【 資 本 金 】 168億円
- 【 上 場 】 東証一部 (1989年二部 1990年一部)
- 【 売 上 収 益 】 7,004億円 (2017年度)
- 【 連 結 社 員 】 25,074人 (2018年3月末)
- 【 グループ人員 】 47,784人 (2018年3月末)
- 【 ネットワーク 】 国内 26社 333拠点
海外 82社 398拠点 (2018年3月末)



本社ビル

※2017年8月に東京都江東区から移転

※グループ人員数は、パート・派遣社員等含む。持分法適用関連会社人員を除く。

※会社数は、佐川急便(株)を含む ※拠点数は、佐川急便(株)を除く



フレイトフォワーディング 3PL (システム物流) / 重量・機工 / 環境事業 / 物流エンジニアリング フレイトフォワーディング

フレイトフォワーディング

国際フレイトフォワーディング
輸出入通関

3PL

調達/生産/販売/リサイクルに
おける物流サービス全般
WMSの設計・開発・保守

重量・機工

重量物/プラント品の輸送

事務所/工場等の移転/引越し
精算設備・精密機器の搬入据付作業

環境事業

各種製品の収集・運搬/3Rコンサルタント

物流エンジニアリング

包装設計
物流機器設計
物流コンサルティング

3PL導入前

(自家運営)



**アウトソーシング
(業務委託)**

3PL導入後

顧客(荷主)

コア事業

顧客のメリット

コア事業に専念

3PL事業者



提案力

専門力

技術力

運営力

改善力

- 会社数 : 108社
- 拠点数 : 731拠点
- 倉庫面積 : 731万m²
- 人員数 : 47,784人

29の国と地域に
ネットワークを展開

日本

26社 / 333拠点 / 499万m²
29,669人

欧州

12社 / 76拠点 / 51万m²
4,779人



北米*3

10社 / 49拠点 / 31万m²
2,914人

*3: メキシコを含む



東アジア*1

34社 / 144拠点 / 71万m²
2,377人

*1: 中国、香港、台湾、韓国



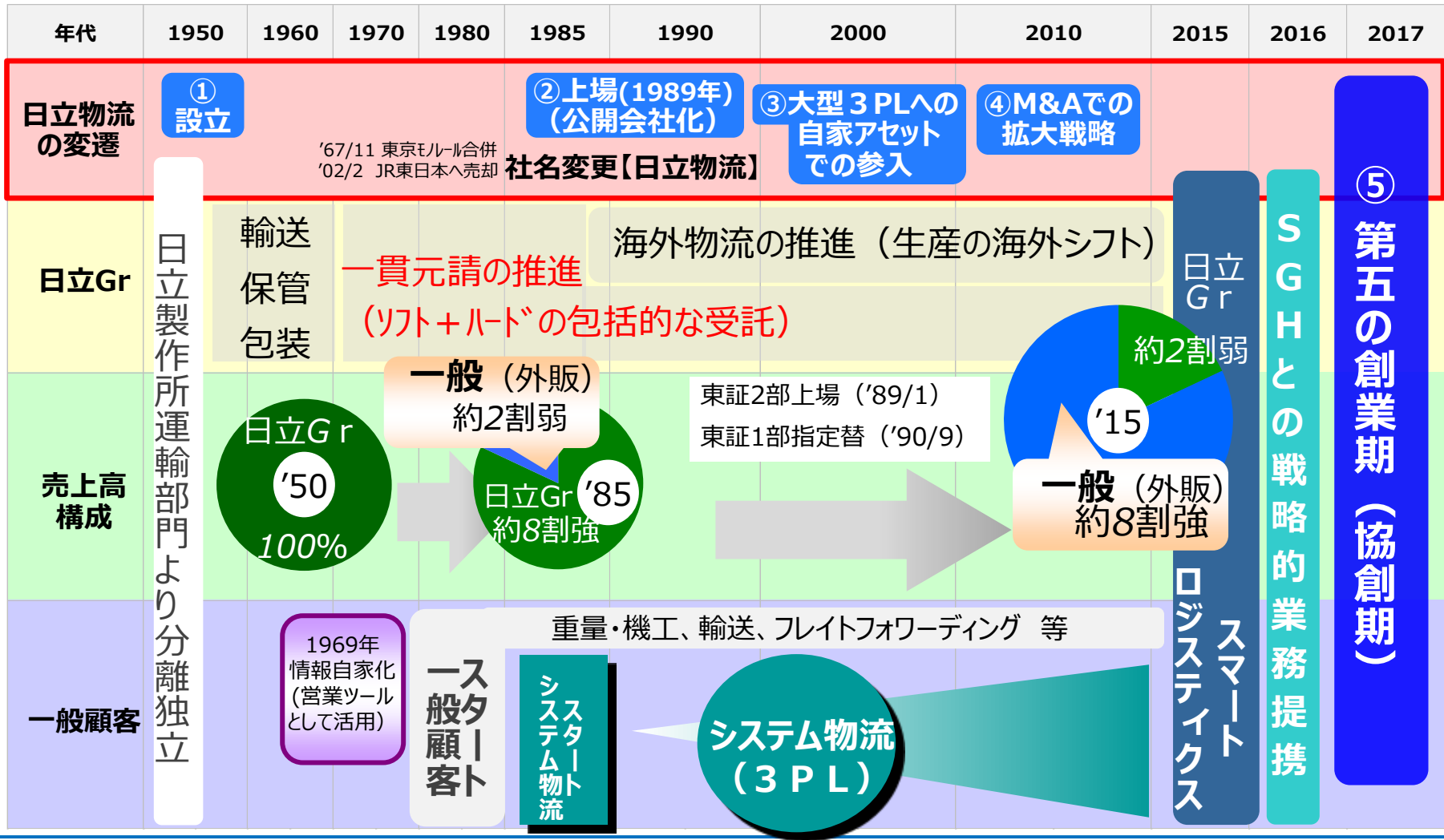
アジア*2

26社 / 129拠点 / 79万m²
8,045人

*2: オセアニア地域を含む



※会社数は、佐川急便(株)を含む
※拠点数・倉庫面積は、佐川急便(株)を除く
※人員数は、持分法適用関連会社人員を除く





代用燃料木炭車と従業員

創業時（1950年）のメンバー





冷蔵庫用低床ボディー車



路線車両



**カナダマイカ発電所納め
水車ランナの輸送作業**



**イランタブリッツ発電所納め
ステータの輸送作業**

RFIDマテハン



小売店舗向け シュート



デジタルピッキング システム

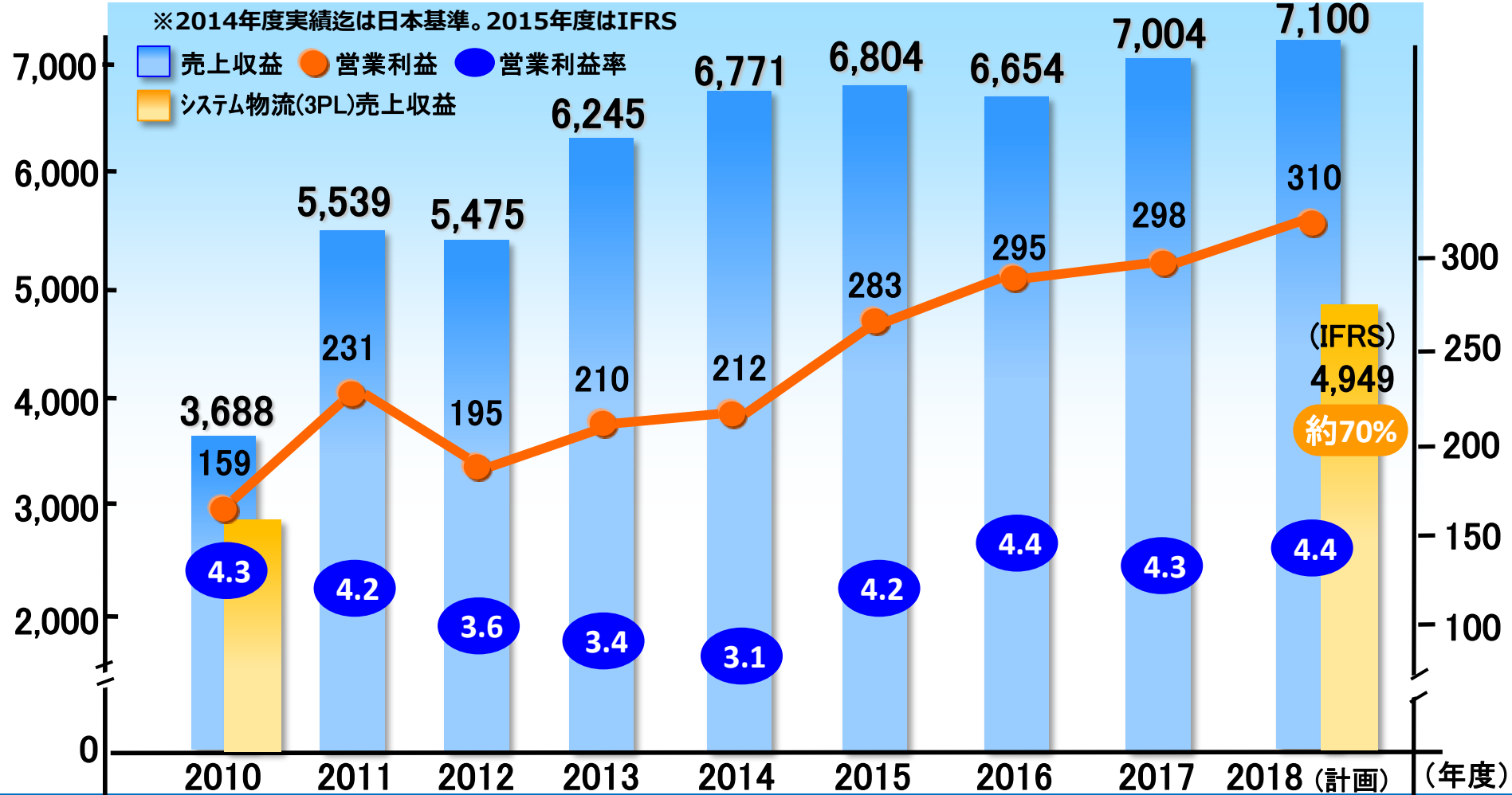


物流センター・トラック

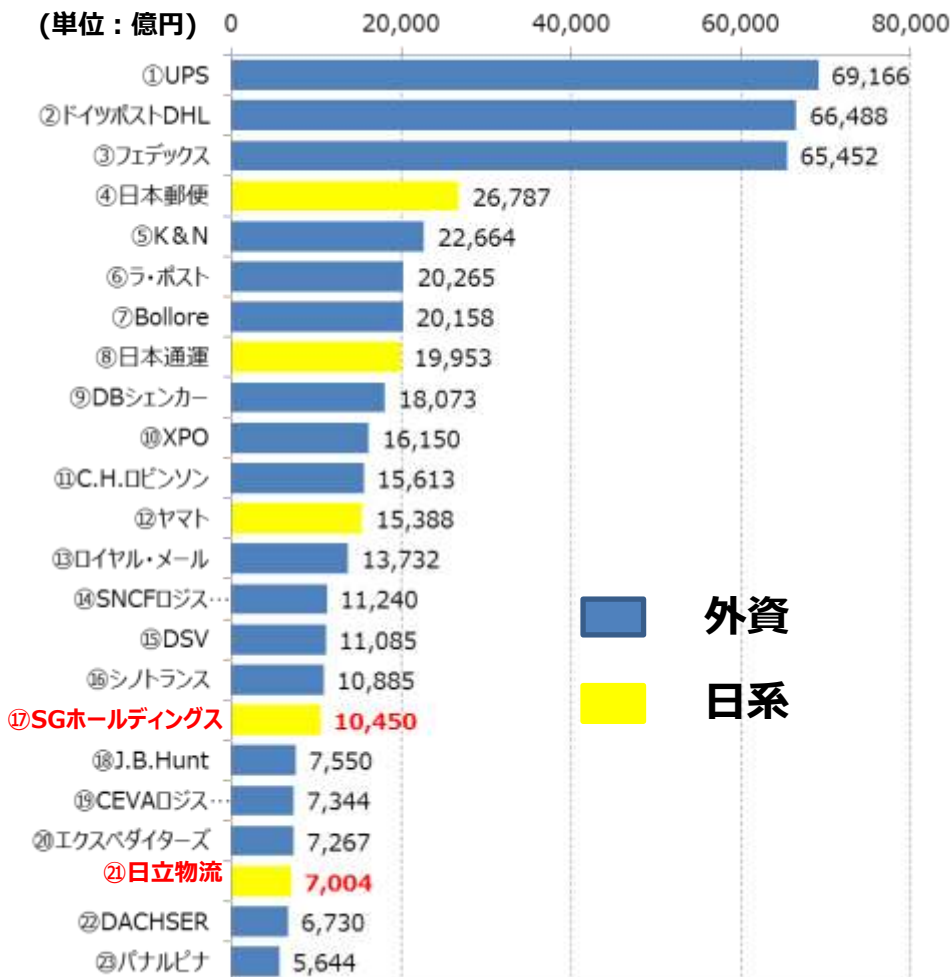
(売上収益:億円)

(営業利益:億円)

※2014年度実績迄は日本基準。2015年度はIFRS



売上高ランキング (外資・日系企業)



3PL売上高ランキング (日系企業)

順位	会社名	3PL売上高	全体売上高
1	日立物流	4,753	7,004
2	センコーグループホールディングス	2,874	4,921
3	郵船ロジスティクス	2,000	-
4	日本アクセス	1,737	21,374
5	日本通運	1,700	19,953
6	近鉄エクスプレス	1,681	5,532
7	SGホールディングス	1,404	10,450

(出典：「月刊LOGI-BIZ」2018年9月号)

売上高ランキング  日立物流

全企業……第21位

日系企業……第5位

3PL売上高ランキング

日系企業……第1位

2018年度 第3四半期決算概要

(単位：億円、端数四捨五入、< >内は利益率(%))

	2017年度	2018年度				
	第3四半期累計	第3四半期累計			通期	
	実績	実績	前年同期比		計画 (4.27時点)	前期比
			比率	増減		
売上収益	5,259	5,358	102%	99.8	7,100	101%
営業利益※	<4.2> 219.0	<4.5> 240.6	110%	21.6	<4.4> 310.0	104%
EBIT (受取利息及び支払利息 調整後税引前四半期利益)	<4.8> 252.0	<5.1> 275.6	109%	23.5	<4.9> 347.0	105%
親会社株主に帰属する 四半期利益	<2.9> 154.7	<3.3> 174.4	113%	19.7	<3.0> 215.0	103%

※本資料中の営業利益は、「調整後営業利益」を記載

通期計画は変更なし

(単位：億円、端数四捨五入、()内は営業利益率)

項目		2017年度		2018年度			
		第3四半期累計		第3四半期累計			
		売上収益	営業利益	売上収益	前年同期比	営業利益	前年同期比
海外	北米	324	2.1	343	106%	7.4	345%
	欧州 ^{※1}	535	25.5	528	99%	27.7	108%
	アジア(中国除く)	311	10.7	340	110%	16.3	152%
	中国	444	6.6	393	89%	9.3	141%
	オセアニア他	28	2.3	29	102%	2.5	107%
	連結消去等 ^{※2}	-42	-5.9	-43	-	-7.3	-
計		1,600	(2.6%) 41.4	1,590	99%	(3.5%) 55.8	135%

※1. トルコは欧州に含む

※2. バンテック顧客関連資産償却は連結消去等に含む

成長分野・地域への戦略的投資

欧州

- トルコを基点とした
インターモーダル事業の拡大
(北欧・中央アジアへの展開)
- イノベーションセンター (UK)



北米

- 輸送ネットワーク拡充
& シェアリングエコノミー
- 次世代センター稼働
(Non-Auto分野)



アジア

- インドサプライチェーン
ネットワーク強化(GST対応)
- コールドチェーン拡大
(チルドセンター拡張)
- 域内クロスボーダー物流拡大



中国

- 内陸事業拡大
- 高品質・高付加価値
(メディカル・危険品・ソリューション)
- 一帯一路 (大陸間鉄道輸送)



トルコ：新本社倉庫



■トルコを基点としたインターモーダル事業の拡大

マレーシア：ニライチルドセンター



- * 空調設備 * 保冷库 * 自家発電機
- * ペストコントロール * ドックシェルター
- * 監視カメラ * 指紋認証ロック

シームレスな総合物流サービスの実現に向けた協創・協業の推進

(単位：億円)

項目	2017年度				2018年度			
	3Q累計実績		通期実績		3Q累計実績		通期計画	
	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益	売上収益	営業利益
国内	58	5.0	103	9.9	110	11.3	186	18.4
国際	4	0.5	7	0.8	7	1.3	11	1.2
その他	2	0.1	2	0.1	4	0.5	3	0.4
協創効果 ()内は営業利益率	64	(8.8%) 5.6	111	(9.7%) 10.8	121	(10.8%) 13.1	200	(10.0%) 20

■ 通期計画に対する進捗率： **60%** **65%**

バーコードラベルの読取処理を短縮できる「映像検品認識装置」の特許取得

【特許登録日】 2018年9月7日

【特許の概要】 画像処理を利用した検品装置を日立物流ソフトウェアと共同開発
商品を撮像するだけで検品が完了（複数商品の一括検品も可能）



■ 高速かつ正確な情報処理を実現

検品対象の全体画像から、バーコード部分のみの画像を高精度に読み取ることが可能

■ 検品作業の効率化を実現

検品結果はシステムモニターに即時反映

■ オーダーメイド

お客様の商品やニーズに合わせた運用が可能

ダブル連結トラックを導入【導入時期：2019年2月】

全長21m ドローリー連結・分割方式 ダブル連結トラック ⇒ **2セット導入**



物流は新領域へ
LOGISTEED

全長10m
フル・セミトレーラ

全長11mフルトラクタ

特徴

- ・ ドローリーを切離すことで、フルトラクタとセミトレーラに分割して運行可能
- ・ ウイング仕様のダブル連結トラック

導入効果

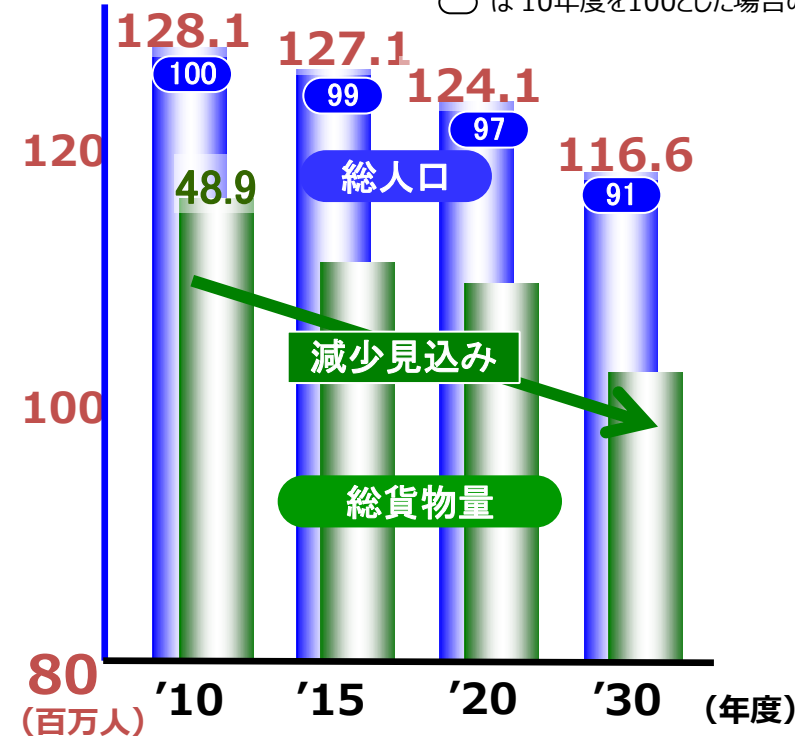
- ・ 積載可能荷量増加による原価低減
- ・ 長時間運行の削減による運行管理リスク低減
- ・ 運行台数削減によるCO2排出量削減

※本取組みは、「物流分野におけるCO2削減対策促進事業」(環境省補助事業〈国交省連携〉)として採択されています。

事業環境と 当社のめざす姿

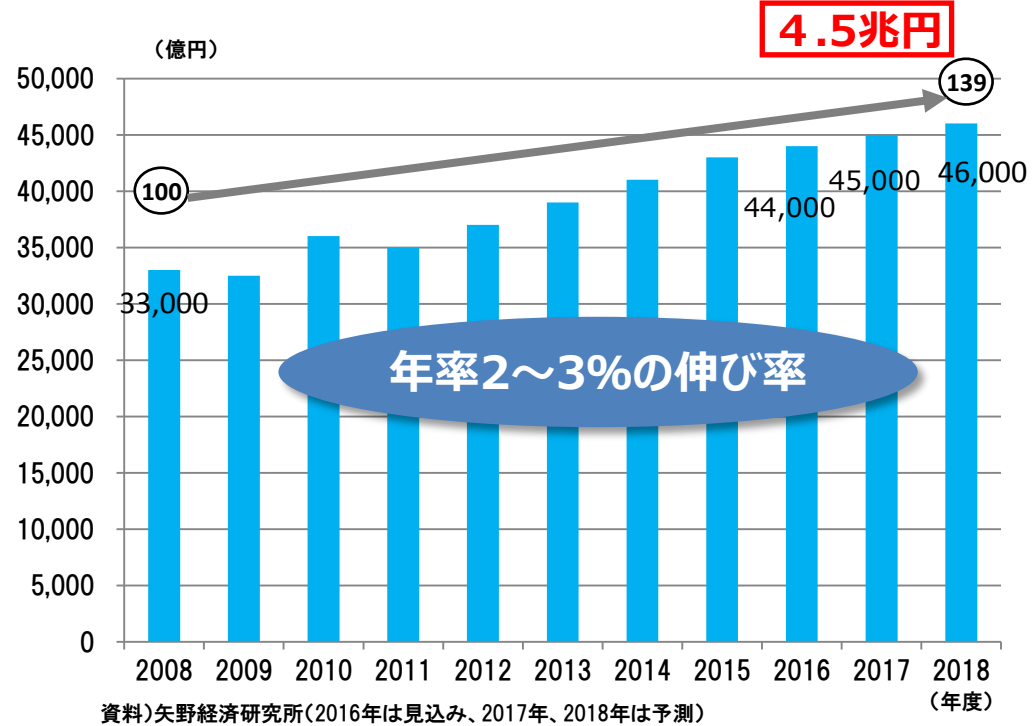
● 国内総貨物量

○ は10年度を100とした場合の指数



● 国内システム物流 (3PL) 市場規模

● 高付加価値のシステム物流は増加基調で18年度は08年比139%の予測



国内物流事業は、人口減少に伴い、総貨物量の減少が想定されるなか、高付加価値の国内システム物流(3PL)市場は拡大する事が予測されている

■ 物流を取り巻く変化 ～直面する課題～



めざす姿：Global Supply Chain Solutions Provider

S&H | SAGAWA



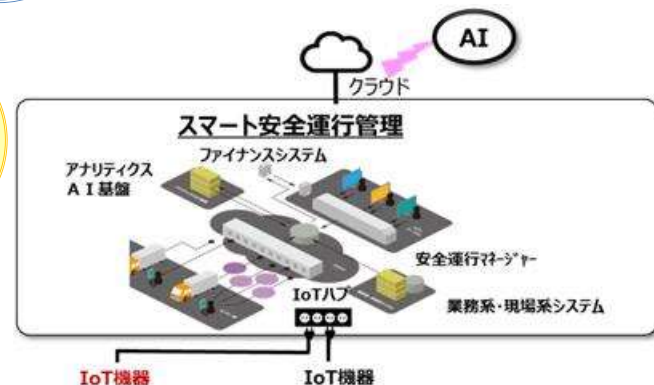
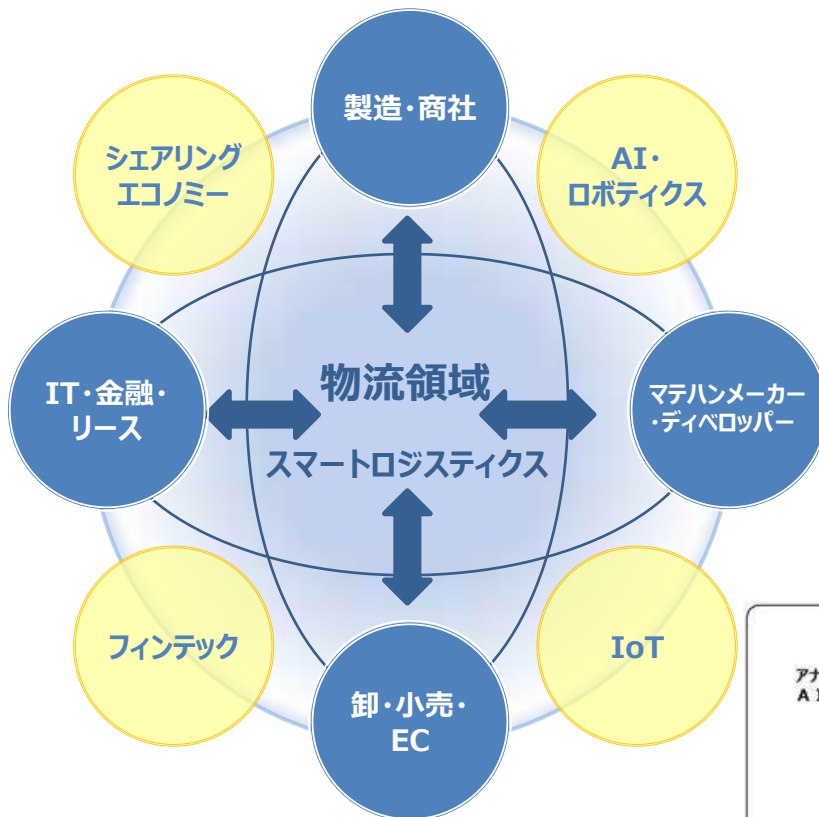
KWE | PCD PCJ設立

プラットフォーム
(業界・エリアでのシェアリング)



SCM Finance

日立キャピタル Hitachi High-Tech



日立物流グループはスマートロジスティクスの領域を超え、
ブランドスローガンである“未知に挑む”当社グループの姿を、

新たなビジネスコンセプト『LOGISTEED』に込めて始動しました。

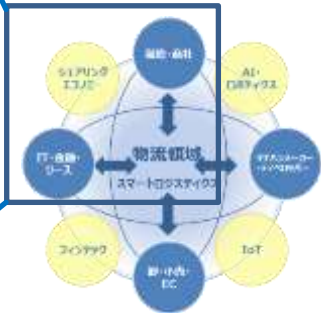
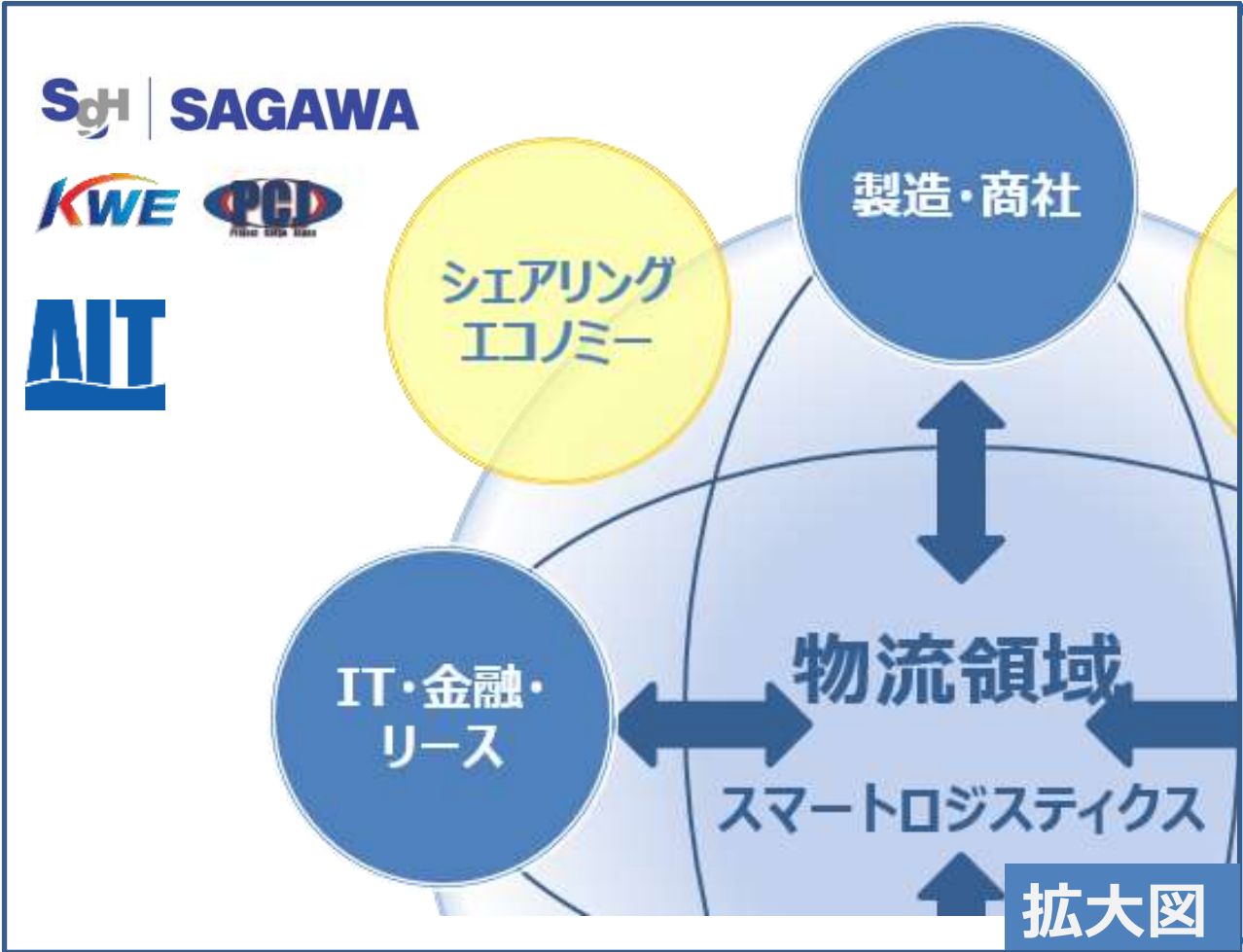
『LOGISTEED』： LOGISTICSと、Exceed、Proceed、Succeed、そしてSpeedを融合した
ロジスティード 言葉であり、ロジスティクスを超えてビジネスを新しい領域に導いていく意思が
込められています。

ビジネスを未来へ運ぶ、
SMART LOGISTICS



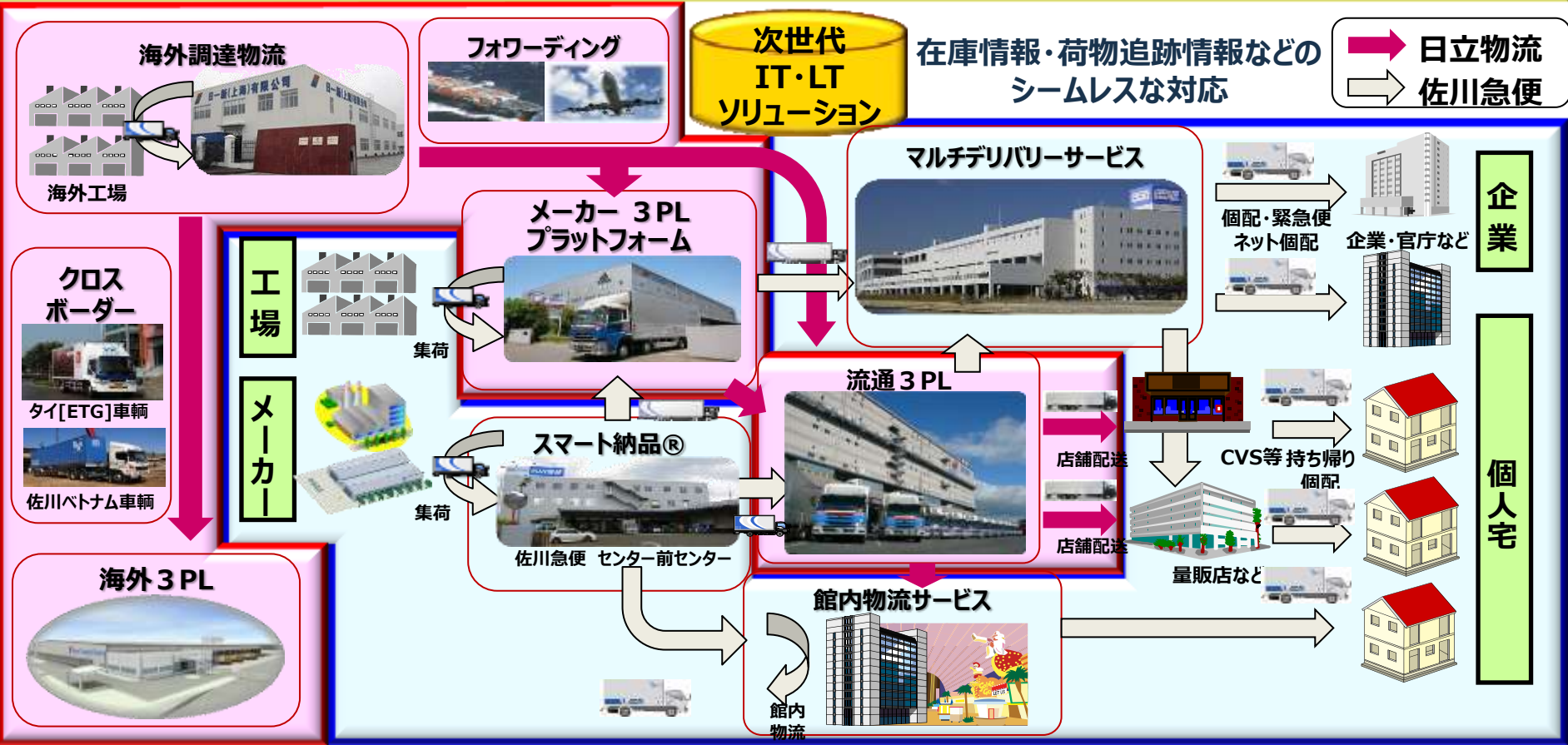
物流は新領域へ
LOGISTEED

未知に挑む。  日立物流



めざす姿

■ 川上～川下(集荷・3PL・配送)全体をカバーする融合ソリューションの提供



川上

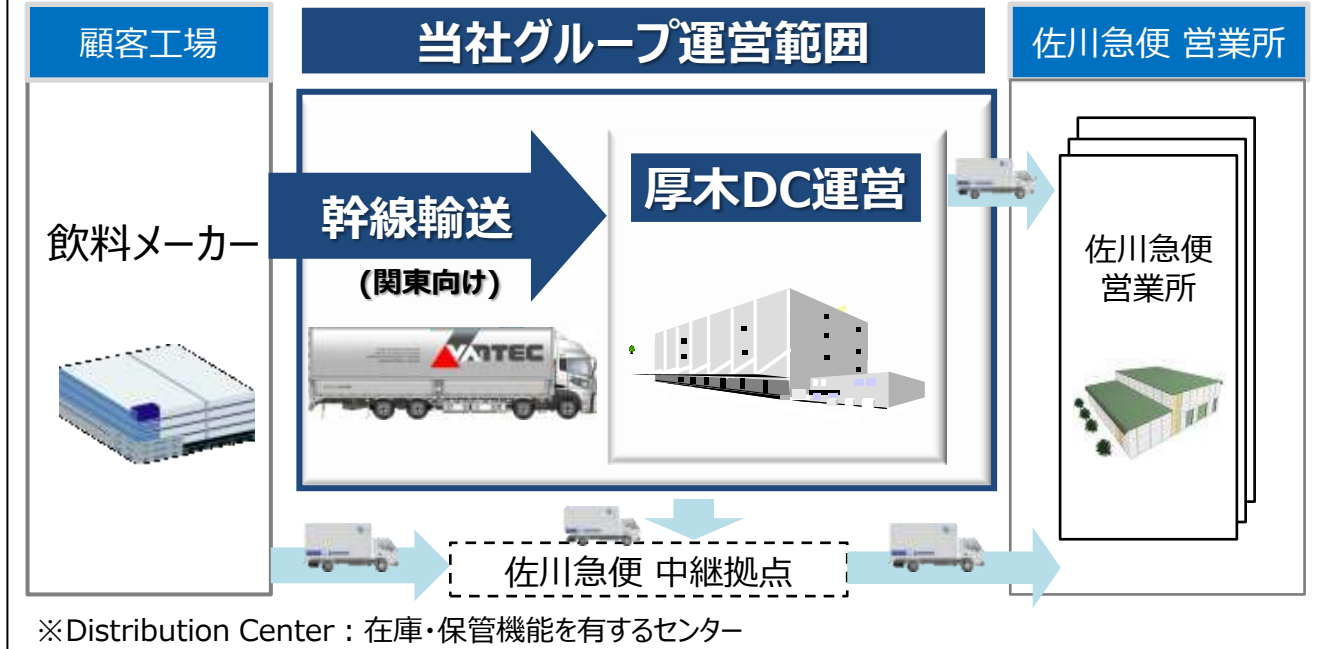
川下

飲料メーカーDC※運営（神奈川県）

【実施期間】 2018年6月～

【内 容】 当社グループ：顧客工場 → **幹線輸送&DC運営**
SGHグループ：顧客工場 → 中継拠点 → 営業所 → 宅配

作業概要



《受注のポイント》



最適提案力

×



輸送力

×

SAGAWA

顧客ネットワーク

バンテック車両による佐川急便幹線の請負

■バンテック保有車の夜間活用（佐川急便幹線輸送）⇒ 車両稼働率の最大化

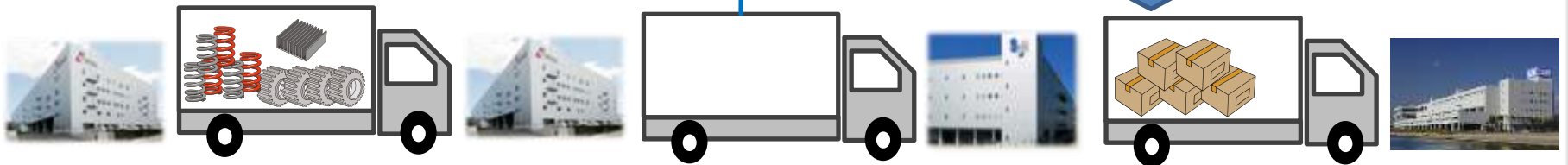
昼間

夜間

自動車部品を輸送

移動

佐川の荷物を拠点間輸送



■ エーアイティーとの資本業務提携

■ エーアイティー株式と日新運輸株式の株式交換

※日新運輸株式の100%をエーアイティーに譲渡、日立物流がエーアイティー株式の20%を取得

現在



100%

日新運輸株式会社

実行後



子会社化

0%→100%

日新運輸株式会社

資本業務提携

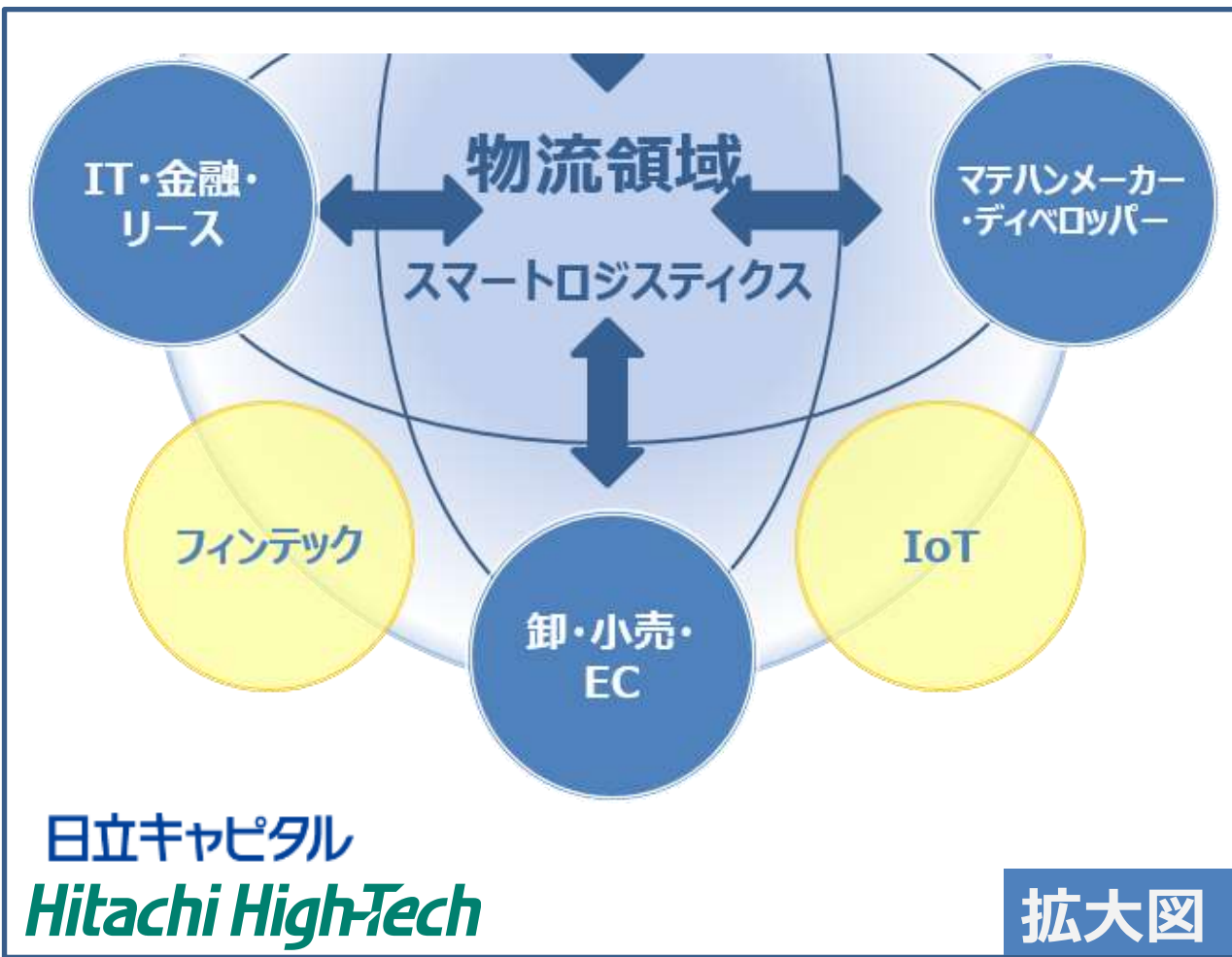
エーアイティー株式20%

株式交換

日新運輸株式100%



※エーアイティーは20%相当を新株発行予定
※株式交換効力発生日:2019年3月1日(予定)



めざす姿

日立キャピタルとの業務提携



目的

機能としての金融・物流強化を中核としながらも、事業・業界を超えた協創領域の拡大を図り、**「金流×商流×物流×情流」の新たなイノベーションの実現**に向けた施策を推進

内容

✓トータルソリューションパッケージの提供に向けた取り組み



- ・日立物流: 運行情報取得【物流】、疲労測定、事故リスク評価
- ・日立キャピタル: リース提供【金流】、事故リスク・安全対策手法
- ・日立オートサービス: 外販【商流】、車両実装、保守アフターサービス

✓日立オートサービス株式の一部を日立キャピタルに譲渡

⇒ 日立キャピタルが推進する**「ビークルソリューション事業」***との連携強化

* 自動車にかかわるファイナンスにとどまらず、顧客ニーズに応じたメンテナンスや保険などの各種サービスを組み合わせたトータルソリューション



操縦士を事故から守り、労働環境改善のために、IoTテクノロジーを駆使し、事故ゼロ社会の実現をめざす「安全・安心のプラットフォーム」

SSCVがめざす社会へのアプローチ

経団連提言：Society5.0時代の物流

- つながる物流
- 共同する物流
- 創造する物流
- 人手を開放する物流
- 社会に貢献する物流

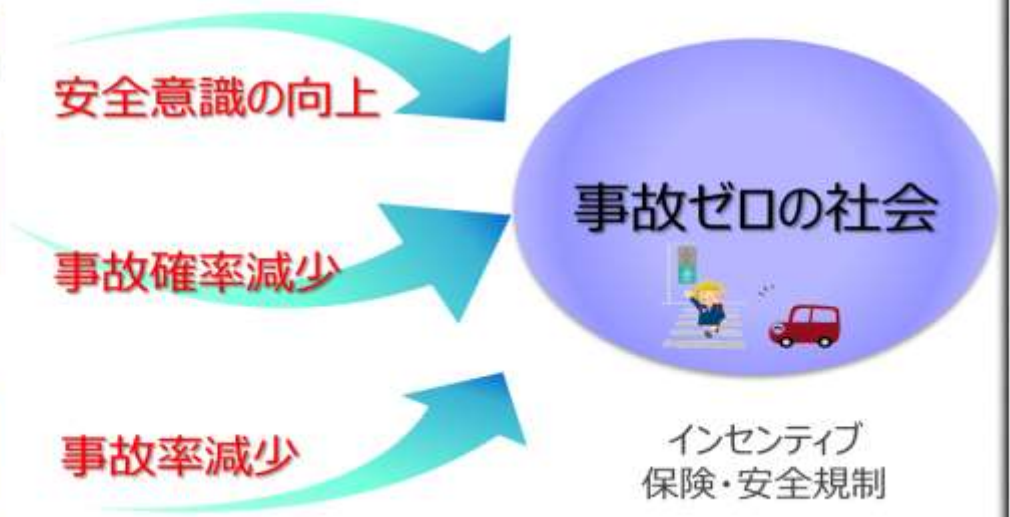
✓ SSCVの導入

✓ ドライバー生体情報管理
 ✓ リアルタイム通知

ノウハウの蓄積



✓ 運行管理制度改善
 ✓ 個別ドライバー教育



機能① 出発時点呼：体調の総合診断

機能② 運行中の異常を管理者へリアルタイム通知

※ 機能開発中であり、変更となる可能性があります

SSCV 08:32
ドライバー 17323

組合特正 65% → 体調測定値 142/80 98%
高呼状況 日時: 08:29 執行者 方法: 対面 検知器: 有 異常種別: 無 高呼: 強制 無 順次機能拡充

高橋 橋行品
順次機能拡充 順次機能拡充

スケジュール 推奨ルート
12:09 豊原ココ 納品 14:30 新大塚 納品
10 順次機能拡充 順次機能拡充

3月中のリリース予定機能

IT点呼を見据え、現場の要望をくみ取りつつ、順次機能を拡充予定

前方衝突警報

ビビー
あう、危険なかったかも

リアルタイムで異常を
管理者へ通知

3月中のリリース予定機能

① 通知内容
② 位置情報
③ 動画情報
10秒程度のショート動画連携

日々の指導



モバイルAI検知部
ヒヤリハットボタン
モバイルAI表示部

スマホホルダ
※スマホは乗車時以外は事務所で保管

機能③ 帰宮時点呼：本日の運行の振り返り

※ 機能開発中であり、変更となる可能性があります

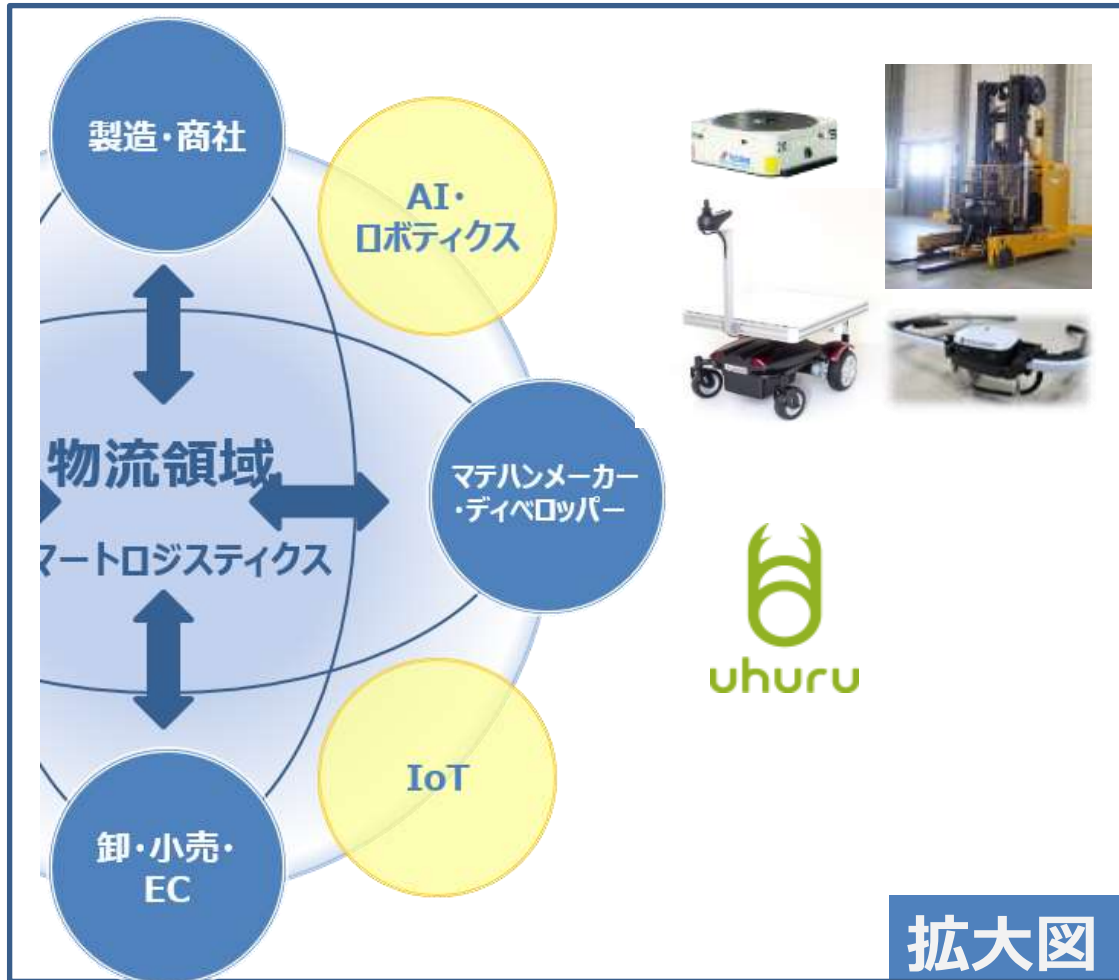
SSCV 16:56
ドライバー 17323

組合特正 63% 体調測定値 131/80 98%
高呼状況 日時: 16:55 執行者 方法: 対面 検知器: 有 異常種別: 無 高呼: 強制 無 順次機能拡充

運行ルート

08:48 豊原ココ 納品
09:17 新大塚 納品
09:32 豊原ココ
10:36-11:03(23分)
11:18 豊原ココ
12:05-13:13(68分)
15:17 豊原ココ 納品

3月中のリリース予定機能



拡大図



めざす姿

業務提携



デジタルイノベーションの実現



目的

企業価値
の向上

IoT運用支援・知財戦略に強みを持つウフルとの協業により、既存の事業や業界の領域を超えて、様々な協創パートナーとのイノベーション実現に向けた施策を推進

SCM全域に及ぶ最適化や自動化を推し進め、さまざまなデータを活用することで新たな価値やサービスを形成するオープンプラットフォームの創出

内容

- ① エコシステム形成 : 協創パートナーモデル策定、エコシステム形成 等
- ② 知財戦略 : 知見・ノウハウの相互提供、共同特許の策定・出願 等
- ③ プロモーション : パートナー向けイベント及び市場向けセミナー企画・実施 等

スマートロジスティクス導入エリアの拡張 (千葉県内物流センター：スポーツ関連)

2015年4月以前：Racrew導入前

【従来の作業】間口を作成し、手作業でピッキング



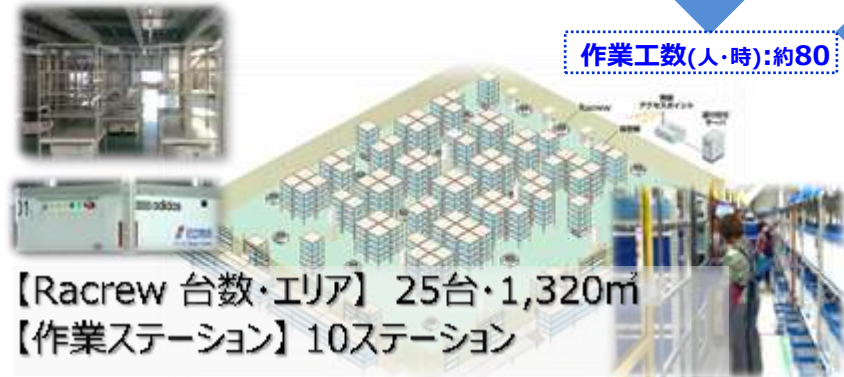
作業工数(人・時):100

2015年4月以前の仕分け作業の工数を100として比較

2015年5月：Racrew導入

約2割減

作業工数(人・時):約80



【Racrew 台数・エリア】 25台・1,320㎡
【作業ステーション】 10ステーション

2018年3月：50台追加導入 (25台→75台)

【Racrew 台数・エリア】 75台・2,880㎡
【作業ステーション】 26ステーション



作業工数(人・時):約50

約3割減

2018年3Q
☑新たに順立機を導入

※「Racrew」は(株)日立製作所の日本国内の登録商標です。

スポーツ&シューズプラットフォームタウン

(2018年8月稼働)



所在地：千葉県柏市
延床面積：約11,7万㎡ ■ 取扱商品：スポーツ関連

千葉県東葛地区に集中している
スポーツ及びシューズ拠点の集約・
最適配置によるプラットフォームタウン

保管効率20%UP × 20%の省人化

■ 省人化推進

ピース順立機、パレット式自動保管システム導入

■ 先端安全テクノロジー

フォークリフト用ドラレコや全方位カメラ等の導入

■ 現場作業・人員の適正化(人員流動化)
WVS※の導入

※Warehouse Visualized System:現場可視化システム

【導入設備】



ピース順立機



パレット式自動
保管システム



フォークリフト用ドラレコ

スマートウェアハウスのコンセプト

■スマートウェアハウスとは、複数顧客で「省人化設備、システム、スペース、人を共用する」物流センター

複数のお客様でシェアするプラットフォームセンター

自動化
省人化
設備

システム

スペース

マンパワー

EC市場拡大へチャレンジ：第一弾日本国内のEC物流をターゲット

顧客価値

「設備」「システム」「スペース」「マンパワー」のシェアリング
+ 自動化・標準化されたオペレーションにより顧客価値を創出

■ 個別投資の抑制

→スモールスタート・クイックスタート・将来の拠点拡大

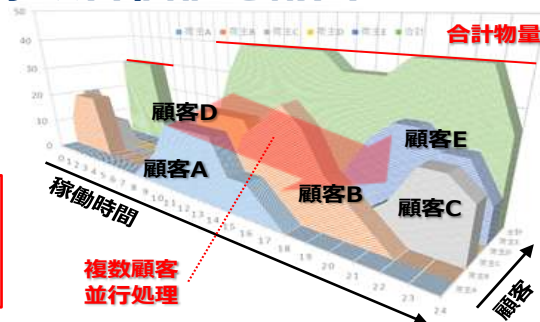
■ 自動化設備と標準化されたオペレーション

→エンドユーザへの品質保証

■ Pay per Use

→コストの見える化・変動費化

お客様のECビジネス
拡大に貢献



ECプラットフォームセンター概要

春日部物流センター内に、第一センターを開設

名称：春日部物流センター



・都心から50Km圏内

物件概要

所在地	埼玉県春日部市南栄町 3 番地
アクセス	東北道 岩槻ICから約 7 km 東武野田線「八木崎駅」徒歩8分
延床面積	8,289坪
構造・規模	鉄骨造 地上4階建
竣工	2009年6月
車輛バース	1階両面接車31台

物流センターの特徴

☑ 国道16号圏内の好立地

→ 駅徒歩圏内、お客様にとっても好アクセス

☑ センター内に約600坪の事務所保有

→ お客様オフィスの設置、ささげ業務区画の設置が可能
 (ささげ：撮影・採寸・原稿)

めざす姿



協創

現実

直面する課題

- 重労働の軽減
- 人手不足解消
- 作業品質の向上
- 働き方改革
- 人件費上昇
- 誰でもできる作業
- EC物量増加
- SAFETY FIRST 事故の抑制
- 問題の複雑化

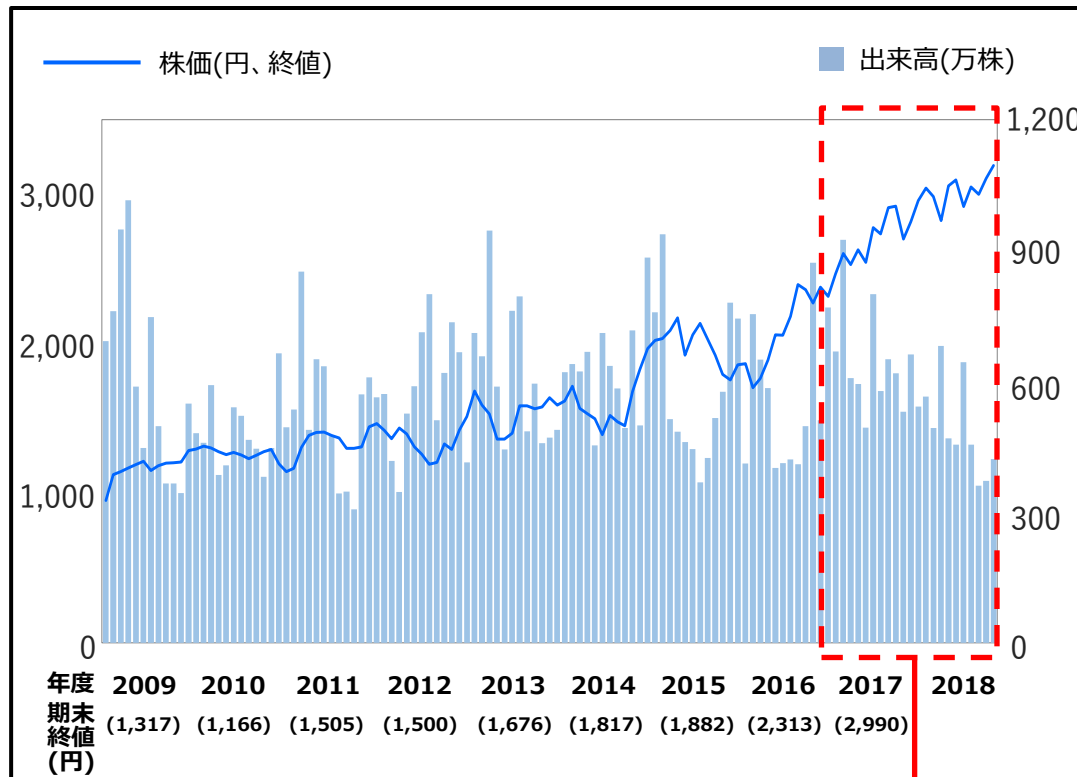


テクノロジー・協創を駆使して
解決をめざす

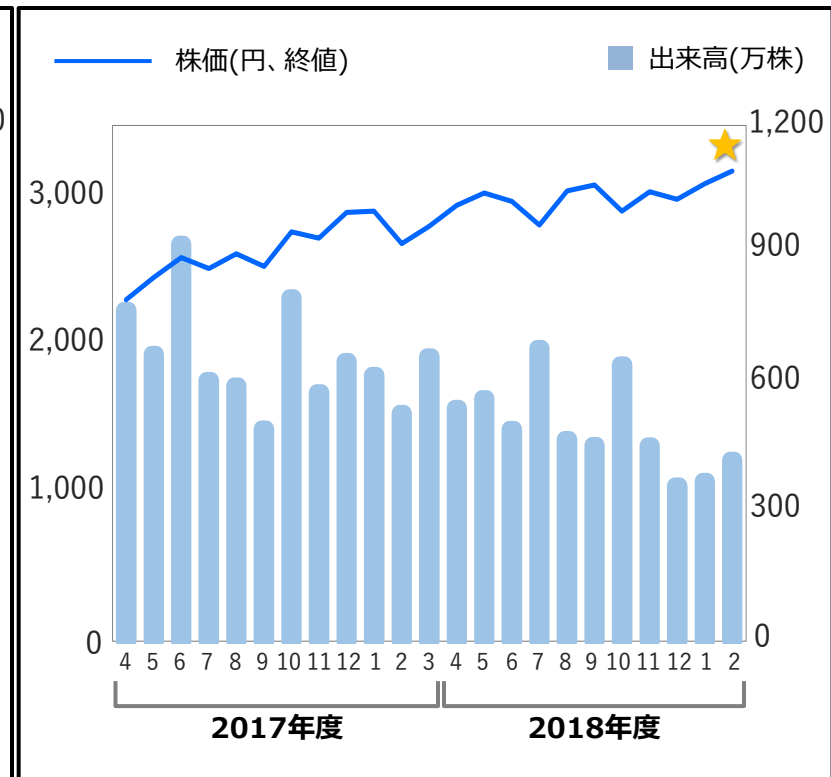
AI IoT Robotics

★過去最高値：3,340円（2019年2月22日）

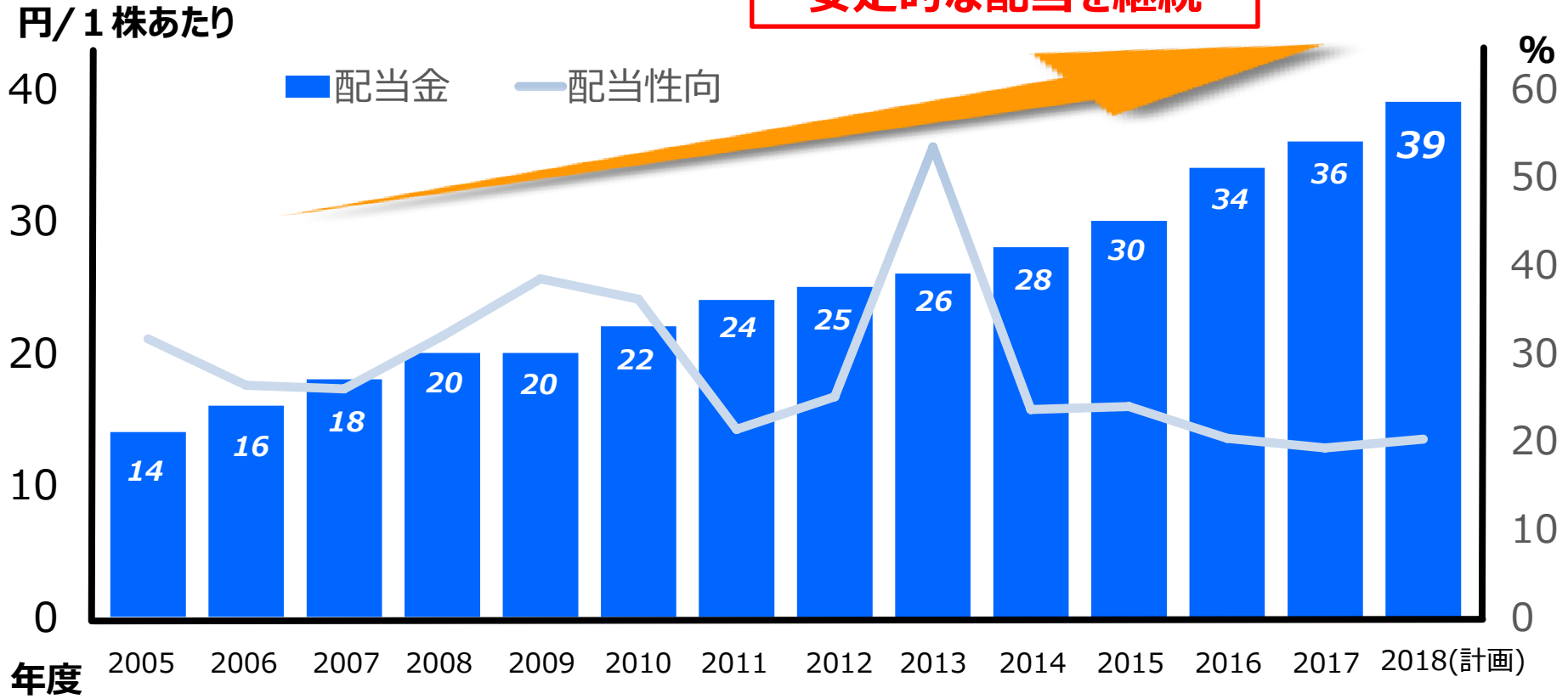
【直近10年間】



【直近2年間】



安定的な配当を継続



日本基準

IFRS

(単位：億円)

項目	2013年度 〔日本基準〕	2014年度 〔IFRS〕	2015年度 〔IFRS〕	2016年度 〔IFRS〕	2017年度 〔IFRS〕
営業活動によるキャッシュフロー	256.9	322.7	388.2	263.7	279.2
投資活動によるキャッシュフロー	△ 246.0	△ 198.9	△ 103.7	△ 690.0	△ 61.8
フリー・キャッシュフロー	10.9	123.8	284.5	△ 426.3	217.5
親会社株主持分（自己資本）	1,686.8	1,737.2	1,755.4	1,874.8	2,043.3
親会社株主持分比率(%)（自己資本比率）	39.4	37.8	37.8	34.1	36.2
D/Eレシオ(%) ※1	49	57	55	86	79
キャッシュフロー対有利子負債比率 ※2	3.9	3.5	2.9	6.9	6.5

※1.有利子負債÷資本合計の数値。有利子負債に割賦未払金は含まない。

※2.有利子負債に割賦未払金を含む